地域と大学、学生をつなぐ
ワンストップのハブセンターを目指します。

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

生活科学研究所
・
女性未来研究所
・
地域連携推進センター
・
ヒューマンライフ支援センター
・
森のサロン

東京家政大学
TOKYO KASEI UNIVERSITY

機構長

山本　和人

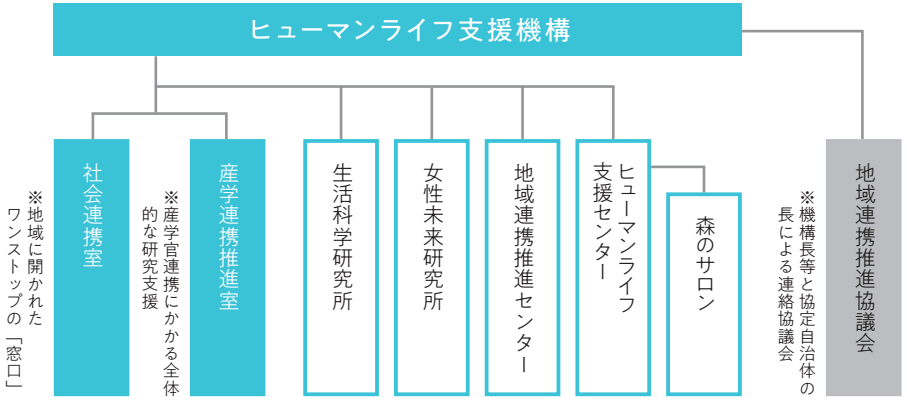
YAMAMOTO Kazuhito　前東京家政大学・東京家政大学短期大学部学長、本学人文学部 教育福祉学科教授。本学人文学部長、図書館長、地域連携推進センター所長、生涯学習センター所長、ヒューマンライフ支援センター所長を歴任。専門/社会教育・生涯学習

地域と学生、大学の連携・協働と「ひとの生(Life)」

ヒューマンライフ支援機構 にご期待ください。

本年、東京家政大学は1881（明治14）年に創設以来、140年目を迎えます。
この間、本学の教育・研究の成果を「ひとの生（Life）を支える学」として
広く社会に発信し、地域の課題解決に向けた取組を
行政、企業、NPO等と協働してすすめてまいりました。
こうした本学の取組を基盤に地域と学生、大学を結ぶワンストップセンターとして、
「ヒューマンライフ支援機構」を昨年4月に開設いたしました。
コロナ禍の中ではありましたが、お陰さまで好スタートをきることができました。
今後は、皆さまのご理解とご支援のもと、
社会連携・産学連携の取組を一層活発化してまいります。

組織図



社会連携室

大学と連携したいが、どこに連絡をすればよいかわからないとよく聞きます。社会連携室は行政、企業、NPOなど本学との連携を希望される方々が気軽に相談できる「窓口」となります。板橋・狭山キャンパスで2名の教員がコーディネーターとして対応いたします。

社会連携室長（板橋キャンパス）　**内野 美恵**

本学の専門である「ひとの生（Life）を支える学び」は、社会の多種多様な分野と連携することが可能です。本学学生の勤勉で若くしなやかな発想力は、これまでの産学官連携事業において、多くの成果を上げています。

UCHINO Mie　本学ヒューマンライフ支援センター専門員（准教授）、東京都食育推進協議会委員、日本パラリンピック委員会医科学情報サポートスタッフ、博士（学術）、管理栄養士

Contact　E-mail: uchino@tokyo-kasei.ac.jp

社会連携室長（狭山キャンパス）　**保坂 遊**

一時期、閉校していた狭山キャンパスも、2014年新学部立ち上げにより、息を吹き返し、近隣地域の皆様との連携も芽生えつつあります。高等教育機関の資源を社会創生のためにご活用いただけるよう窓口の役目を果たして参ります。

HOSAKA Yu　本学子ども学部子ども支援学科教授、修士（社会福祉学）、臨床美術学会理事。研究テーマ/社会ー教育ー医療を包括する美術の社会的意義

Contact　E-mail: hosaka-y@tokyo-kasei.ac.jp

リエゾンオフィサー

地域と大学をつなぐ社会連携室の学外スタッフとして、地域で様々な活動をされている方をリエゾンオフィサーとして委嘱しています。

石井 博
ISHII Hiroshi
十条銀座商店街事務局長、前北区商店街連合会事務局長、元北区役所職員

尾上 元彦
ONOUE Motohiko
男の家事教室・カジオス主宰（ビジコンinさいたま受賞）。調理師、クリーニング師、ハウスクリーニングアドバイザー、介護ヘルパー

松本 晴夫
MATSUMOTO Haruo
前狭山市副市長、元狭山市教育委員会教育長、元狭山市役所一般職職員

産学連携推進室

本学は食べること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進室は大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装（社会の役に立つ）を目指し、産官学の連携による共同・受託研究を活発化します。

産学連携推進室長　佐藤 吉朗

本学の「強み」を最大限発揮しつつ、行政、企業、NPO等をパートナーに連携・協働をすすめてまいります。これらの取組の成果を本学の「研究力」の強化につなげ、生活研究の家政大ブランドを確立できるよう努めます。

SATO Yoshio　本学家政学部栄養学科教授、生活科学研究所所長。2010年に食品企業から本学に。食品の安全から「おいしさ」まで「食」にかかわる幅広い事象が研究テーマ

Contact　E-mail: satouy@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携推進室 産学連携ディレクター　藤本 浩

産学連携推進室では、企業との共同研究、受託研究等を通じて家政大―産業界の連携を推進しています。私は食品企業における研究者として、また、国立研究機関での産学連携・知財管理の経験が豊富です。お気軽にご相談ください。

FUJIMOTO Hiroshi　国立研究開発法人理化学研究所、産業連携部バトンゾーン研究推進課副主幹、一級知的財産管理技能士（特許専門事務）

Contact　E-mail: sangaku-D@tokyo-kasei.ac.jp

家政大の研究シーズ

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/seeds.html

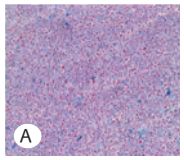
研究シーズ（Seeds）とは、大学と企業、行政、地域等との産学連携、社会連携の「実」となり「芽」となる「種（たね）」のことです。
本学では子どもから高齢者まで、人々の生活にかかわる多様でユニークな研究が行われています。それぞれの教員がどのような研究に取り組んでいるのか、その研究活動の一端を、「子どもと学び」、「食と栄養」、「健康とからだ」、「環境と暮らし」、「こころと表現」をガイドに紹介しています。興味を持たれたシーズがありましたら、産学連携推進室までお問合せください。

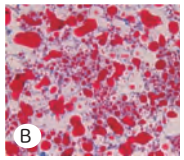
共同研究講座

産学連携推進室のコーディネートで新たに２つの共同研究講座が開設されました。

キユーピー株式会社との連携
キユーピー・東京家政大学　タマゴのおいしさ研究所

峯木眞知子特命教授は、長年、卵（主に鶏卵）について活発な研究を行い、近年ではタマゴ科学研究会の活動やテレビ出演等により、卵の魅力、おいしさについての普及・発信にも取り組んできました。「卵のコクと風味に関与する成分の分析とおいしさの解明」を主テーマに基礎的な研究（●卵黄の色が卵料理のおいしさに与える効果●ゆでタマゴのむきやすさに関する研究など）を計画しており、「おいしいタマゴが創る健康生活」の研究成果を発信して参ります。





おいしい食品の構造は美しい。Aの顕微鏡写真はタマゴと砂糖と牛乳で作ったプリン、Bはとろけるプリンの上層部です。青に染まったのがたんぱく質、赤の部分は脂質です。牛乳の脂肪滴が均一に分散にしたおいしいプリンと脂質が多くコクを強く感じるプリンの構造です

概要　**設置期間**：令和３年４月１日～令和６年３月31日　**研究体制**：特命教授 峯木眞知子／特任講師 小泉昌子／共同研究員 設樂弘之（キユーピー（株））

共同研究講座特命教授
前副学長（研究・産学連携担当）
前人間生活学総合研究科長

峯木 眞知子
MINEKI Machiko

日本における鶏卵の一人当たりの消費量は世界第２位で、身近で高栄養な食品です。近年、鶏卵の新たな機能として、筋力アップやダイエット、視力の維持に重要な役割を担っていたり、脳活性に与える効果などがわかってきています。本研究所は、タマゴのおいしさを解明し、その成果をわかりやすく消費者に発信するとともに、鶏卵を対象とした研究者の育成を目指します。

株式会社じゃばらいず北山との連携
じゃばらいず北山・東京家政大学　じゃばら研究所

「じゃばら」とは、ゆずと他の柑橘類が自然交配して生まれた和歌山県北山村の特産品です。講座では「じゃばらを食べると花粉症が良くなる」という消費者からの口コミに対し、本当に花粉症に効くのか、花粉症の予防・改善をはじめ「じゃばら」の含有成分の効果について「ジャバラが含有するフラボノイド、中でもナリルチン、ナリンゲリンなどの生体調節機能の解明」を主なテーマに、多角的な研究をすすめます。

おなじみの肺活量のほか、鼻腔抵抗も測定できる特殊なスパイロメーター。NIOXでは呼気（吐いた息）の中の一酸化濃度をbpmレベルで測定し、炎症の有無を探る

収穫したじゃばらを手にする和歌山県北山村の皆さん。村でたった１本になってしまったじゃばらの木を村の宝として大切に育て、今では5000本に

概要　**設置期間**：令和３年４月１日～令和６年３月31日　**研究体制**：人間生活学総合研究科教授 澤田めぐみ／家政学部栄養学科助教 冨田知里／共同研究員 和泉又兵衛（（株）じゃばらいず北山）

人間生活学総合研究科
人間生活学専攻主任
家政学部栄養学科教授

澤田 めぐみ
SAWADA Megumi

これまではじゃばらのスギ花粉症に対する即効性や継続摂取による効果を調べるため臨床研究を実施しました。2021年は花粉シーズンを通して、摂取を続けた場合の効果を調査します。じゃばらの機能は、その他のアレルギー疾患に対しても有望と考えられ、気管支喘息に対する研究も予定しています。

各研究所・センターの紹介

生活科学研究所

地域に開かれた生活科学の教育・研究の場

幻の白藤米の復活と酒の仕込み（酒造会社との連携）

昭和23年の設立以来、幅広い分野にわたる学際的な生活科学研究を推進し、行政や企業との共同研究など産学連携をすすめています。高校生による全国研究コンクールや各種講演会、食育活動など広く本学の教育・研究の成果を発信しています。

Contact

TEL：03-3961-2502
E-mail：rids@tokyo-kasei.ac.jp
URL：www.tokyo-kasei.ac.jp/research/rids/index.html

女性未来研究所

女性100年、過去から未来へ

建学の精神である「自主自律」の道を歩み、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」のもと、未来を創造する女性を支援しようと「つなぐ」「究める」「ひろげる」「提言する」をキーワードに活発な調査研究と活動を行っています。SDGsの目標を共有し、コミュニティの課題解決に参画する「女性」を探究しています。

樋口恵子名誉所長の記念講演

Contact

TEL：03-3961-5305
E-mail：josei-mirai@tokyo-kasei.ac.jp
URL：www.tokyo-kasei.ac.jp/research/woman/index.html

地域連携推進センター

地域課題の解決に向けた地域と大学を結ぶ連携拠点

講座「心と体に向き合おう！」（高度専門機器で身体機能を測定）」

本学の教育・研究の成果をもって、様々な地域との連携により多種多様な「学び」の開発・実施の他、調査研究事業を展開しています。地域課題解決に向け、自治体・企業・他大学等との協働による地域活性化の推進に取組んでいます。

Contact（SAYAMA）

TEL：04-2955-6959
E-mail：chiiki@tokyo-kasei.ac.jp

Contact（ITABASHI）

TEL：03-3961-5742
E-mail：syogai@tokyo-kasei.ac.jp

URL：www.tokyo-kasei.ac.jp/society/commulic/top.html

ヒューマンライフ支援センター

地域のニーズに学生の学びで応える

「地域のニーズに学生の学びで応える」をモットーに産学官連携事業を展開しています。本学の「知」を活かし、子どもやお年寄りへの支援活動、食育、デザイン・商品開発など、学生にとっても授業とは違う実学の場を創造しています。Human Life Plazaの頭文字をとって愛称はHulip（ヒューリップ）です。

学生と北区の製麺会社で開発した家政大オリジナルパスタとうどん

Contact

TEL：03-3961-5274
E-mail：hulip@tokyo-kasei.ac.jp
URL：www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/index.html

森のサロン

親子でほっと一息つける場所 板橋区地域子育て支援拠点事業

学生作の大型遊具、森のサロンオリジナル玩具で自由に遊べます

０～３歳のお子さんを持つご家庭対象の子育てひろばです。「であい・ふれあい・学びあい・育てあい・思索、対話の場」をテーマに、学内外の専門家による講座やイベントの開催、週末サロン、リフレッシュ保育等を開催しています。また学生によるイベントの企画や実習の受け入れ等、学びへの支援も行っています。

Contact

TEL：03-3961-6354
E-mail：morinosalon@tokyo-kasei.ac.jp
URL：www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/salon/index.html

主な社会連携・産学連携の歩み

2005	(平成17年)	東武百貨店池袋店SPICEメニュー開発 (～2014)
2006	(平成18年)	東京都北区「高齢者ふれあい食事会」協力 (～継続中)
2007	(平成19年)	「白藤プロジェクト」(企業、農家との連携による白藤米の復活) が発足 学生が企画し運営した食育カフェ「茶の間-CHANOMA-」が第3回東京商店街グランプリにて「地域活性化部門 準グランプリ」を受賞
2010	(平成22年)	板橋区地域子育て支援拠点事業「森のサロン」スタート 東京都板橋区・大学公開講座 (連続6回、隔年開講、～継続中)
2011	(平成23年)	東京都北区と包括協定を締結 狭山市教育委員会・入間市教育委員会等との連携「子ども大学さやま・いるま」スタート (～継続中)
2012	(平成24年)	「白藤プロジェクト」が農林水産大臣賞を受賞 東京家政大学オリジナルピンクリボン※啓発カレンダー制作 (～継続中) ※アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期検診・早期治療を促す啓発運動
2014	(平成26年)	(株) ロフト「カロリーBENTO」レシピ考案 (～2016) 初代所長に樋口恵子氏就任
2015	(平成27年)	東京都板橋区共催「いたばしI(あい)カレッジ」(～2017) 北区共催「さんかく大学」(～2017) 群馬県共催「とらいあんぐるん大学連携講座」(～2017)
2016	(平成28年)	埼玉県狭山市と包括協定を締結 千葉県長南町と包括協定を締結 東京都板橋区と包括協定を締結 入間市と東京家政大学との子育て支援に係る調査研究
2017	(平成29年)	東京家政大学×北区×東洋大学「東京2020オリンピック・パラリンピックプロジェクトチーム」協力 (～継続中)
2018	(平成30年)	埼玉県入間市と包括協定を締結 玉川食品 (株)「コンディショニング麺」開発 (～2019) 東京都板橋区・北区共催「子育てママの未来計画」 特別区長会調査研究機構・板橋区提案による自尊感情に着目した育児期女性の支援に関する基礎研究 板橋区環境協働プロジェクト「親子環境学習講座」
2019	(平成31年) (令和元年)	「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム (TJUP) 包括協定」締結 「東京家政大学ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」が発足 農林水産省が支援する農業女子プロジェクトの連携大学となる
2020	(令和2年)	学生が企画実施している食育イベント「食リンピック」が農林水産省主催第4回食育活動表彰にて消費・安全局長賞受賞 学生が企画実施しているアートワークショップ「学生がつくるサロンプロジェクト」が厚生労働省主催第9回健康寿命をのばそう！アワード (母子保健分野) 」にて子ども家庭局長賞 団体部門 優良賞受賞

●生活科学研究所　●女性未来研究所　●生涯学習センター
●地域連携推進センター　●ヒューマンライフ支援センター

学生が参加したプロジェクト

ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト　農林水産省が推進するパートナー校として、女性ならではの新しい発想で事業を企画します

学生がつくるサロンプロジェクト　森のサロンを舞台に、学生がワークショップの企画・実地・冊子制作を行なっています

長南町の特産品を使用したレシピ開発　千葉県長南町の特産品を使ったレシピを学生が考案します

コンディショニング麺の開発
北区の製麺会社と、アスリートのように健康で元気に動ける身体づくりに貢献できる麺を開発しました

「トップアスリートのまち・北区」クリアファイルデザイン
北区の取組みや特色を発信していくためのツールとして学生がデザインしました

北区立柳田小学校食育連携事業　掲示物の作成や食育出前授業、児童が描いたイラストでバンダナ制作等を行いました

食リンピック(食育イベント)
家政大学発の「食育」の浸透を目的にした、五感を使った「食」の競技を学生が企画・運営します

入間市共催シンポジウム
「青少年の輝く未来に向けて～未来の主役である子どもたちがｆ元気に育つまちづくり～」に学生が登壇しました

狭山市茶業協会と狭山茶フラッペの開発　学生がオリジナルレシピを考案。入賞レシピは狭山市内飲食店で提供されました

昭和産業グループレシピ開発教育プログラム　企業での勉強会や施設見学等を経てレシピを考案。入賞レシピは卵のパッケージに採用されました

狭山・入間市共催講座 -夏休みスポーツ体験教室-
小学校の授業にはない、人気のトランポリン体験などを学生がサポートしました

「DRP　Healthcare magazine」(株) ドクターズプラザが発行している医療機関向け冊子の、表紙とコラムのイラストを学生がデザインしています

PICK UP

「子ども大学さやま・いるま」入学式、全学生が揃っての集合写真（狭山キャンパスAV教室で）

未来を担う子どもたちの成長を育む
「地域の教育支援」

子ども大学さやま•いるま

地域連携推進センター

［生き方学］臨床美術を学ぼう！～感じて・表して・認め合う～心が元気になるアートに挑戦!!

「子ども大学さやま・いるま」は、狭山市・入間市の教育委員会と本学が実行委員会を組織し開催しています。

子ども大学は、平成 14 年にドイツのチュービンゲン大学で始まり、日本では平成 21 年に「子ども大学かわごえ」が誕生。平成 22 年から、埼玉県の全面的な支援を受け、地域の大学や市町村等が連携して子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供し、子どもの学ぶ力や生きる力を育む仕組みとして埼玉県内での実施が拡がり、現在50をこえる「子ども大学」が開講しています。

本学では、23 年度に始まり今年10 期目を迎え、毎年、本学教員・地域の専門家より「はてな学・ふるさと学・生き方学」の三つのキーワードにより、大学の特色を活かした教育プログラムを開発・実施しています。例年、定員を大きく超える応募を頂き、保護者の方々にも好評を得ています。

複数の家族が参加し、観察をしたり考えを発言したりします。ほかの家族の発言にも耳を傾けます

自然のしくみを親子の学びへ

親子環境学習講座

生活科学研究所

講座の中で絵本を完成させて持ち帰り、親子の関わり合いに生かされます

東京都北区環境課からの委託事業「北区環境大学」の中で、幼児と親向けの「親子環境学習講座」を開発・開講しています。

「電気はこまめに消そう」「ゴミは分別しよう」のように「教え込む」のではありません。なぜ環境配慮行動が必要なのか。なぜ環境問題が起きてしまうのか。

講座では、身近な植物や生き物、食べ物などを題材にして、正しい考え方を構築していく土台としてもらうべく、地球が本来備えている循環や恒常性、生き物どうしのつながりなど自然のしくみを理解してもらうことに主眼を置いています。

講座中、親子は内容を書き込んだりシールを貼ったりして「マイ絵本」を完成させ、持ち帰ります。多くの家族が読み返しており、家庭での親子の関わり合いを持続・強化させることがわかっています。

ワークシートを使いながら、普段の生活を振り返り、さまざまな視点で「自分」について考えます。

女性の活躍推進に向けた共催事業

子育てママの未来計画

女性未来研究所

視野が広がった、考え方が変わったなど、毎回大変好評をいただいているセミナーです。

子育て中の女性たちが自分自身の生活や希望を見つめ直し、今後の人生をイメージできるよう構成された連続講座を実施しています。

研究プロジェクトを行っている研究員が講師を務め、こころの元気を取り戻す方法を学ぶ『レジリエンス編』、毎日の生活を客観的に見直す『家政学入門編』、講座受講者が自分らしい未来をイメージする『ライフデザイン編』の3部構成になります。

この講座は、主にグループワークを行う対面講座とホワイトボードアプリを使用したオンライン講座があります。

また、自治体と共同で行っており、本学と包括協定を結ぶ東京都北区、板橋区との、3者共催事業として年2回講座を開催しています。

食材の育ちや農家が実践する食べ方等を学ぶために、農業女子が営む農園にて収穫体験とインタビューを行いました

女性として農業について考えてみませんか?

ワークライフバランスin農業女子プロジェクト

ヒューマンライフ支援センター

様々な形態で行われている農業の実情を知り、理解を深めるために東京都瑞穂町にて農地見学を行いました

「農業女子プロジェクト」は、農林水産省が推進する、女性農業者の知恵を企業のノウハウ等と結びつけ新たな商品やサービスを創造し社会に広く発信することなどが目的のプロジェクトです。プロジェクトでは、目的のひとつである「若い女性の職業の選択肢に『農業』を加える」ことを実現していくため「チームはぐくみ」を結成し、教育機関によるプログラムと農業女子の魅力を結びつける取り組みを行っています。

本学も「チームはぐくみ」に加入し、農業を女性の視点からコミュニティビジネスとして創造し、子供の貧困や中高年の健康、高齢者の孤独といった社会問題についても農業で解決できないかと考える、本学ならではの「ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」に取り組んでいます。参加した学生は、農業女子の働き方が自分の人生を豊かに彩る可能性に気づきはじめています。

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構
Organization for Research and Community Cooperation

173−8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL: **03-3961-5537**
E-mail: orcc@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/index.html